

愛媛県における 『行革甲子園』の取組について ～先進事例の横展開による行革推進～

愛媛県 総務部 総務管理局
局長 福井 琴樹



[はじめに①]

愛媛県における県・市町連携の推進

背景

地方分権の進展

厳しい財政状況

市町村合併の進展

業務の効率化や行政コストの縮減を図る → **組織の垣根を越えた連携が必要**

平成22年度 **県・市町連携推進本部** 設置

(構成: 知事、全20市町長)

連携施策の創出・実行

(H23以降毎年度「連携推進プラン」を作成)



126項目に及ぶ**連携施策**を創出

2
(H28プランまで)

[はじめに②]

愛媛県における県・市町連携の成果

主な成果

①税務職員の相互併任



個人住民税の滞納繰越額が約4億1千万円削減(H28.3末)

②「愛媛サイクリングの日」
関連イベントの実施



・全市町でイベント一斉実施
・情報発信、交流人口増加

③愛南町と県の合同庁舎化



・建設費・維持管理費縮減
・災害時の迅速対応



愛南町新庁舎

- ・H28.5 町の業務スタート
- ・H28.8 県出先機関移転予定

さらに、効果として

連携の“意識”が醸成

日頃の業務や、新規施策を検討する際に、他の市町との
連携の意識が定着 (ほぼ全ての市町が「連携の意識が強まった」と回答)

本県独自の強みに！

「行革甲子園」開催の経緯

県と市町の強固な連携関係を生かした行革の推進 ⇒ 「行革甲子園」

きっかけ

➤ 知事の発案

「行政改革に終わりなし」の姿勢（H22.12 中村時広知事就任）

狙い

➤ 行革は未来志向の取組であることを共有！

「削る」「切る」などの後ろ向きのイメージだが、明日への力を得るための手段という位置付けにすれば、極めて前向きな取組

➤ 「チーム愛媛」で高め合う！

情報を共有しお互いが刺激し合い、自らも取り入れる

これまで2回にわたり「行革甲子園」を開催

「行革甲子園」開催実績①

第1回 行革甲子園

日時	平成24年10月10日(水)
場所	県男女参画共同センター(松山市)
参加	300名(知事、県内市町長、自治体職員他)
応募	県内全20市町から64事例
概要	書類審査で選考された6事例を発表・審査(学識経験者、知事・市町長により審査)



知事・市町長による意見交換(第1回)

- 発表事例
- ①産官学のパートナーシップによる地域づくり(愛南町)
 - ②Facebookページ「八幡浜市みかん課」(八幡浜市)
 - ③自治会制度による住民自治のまちづくり(内子町)
 - ④未来せいよ創造プランプロジェクトの実現(西予市) ※えひめ行革大賞受賞
 - ⑤協働のまちづくりの推進(四国中央市)
 - ⑥市民とつくる地域消防防災力(松山市)
- 【県外先進事例の参考発表】大野城市の行政改革(福岡県大野城市)
- 【県発表】愛媛県の行政評価システム

えひめ行革大賞
西予市／若手職員行革チームが全事務事業1,470事業について徹底的に見直しを行い、399事業について総額約6億円の削減に向けた改革・改善案を策定した。

その他
全国知事会から優秀政策として表彰(H25)

「行革甲子園」開催実績②

第2回 行革甲子園2014

日時	平成26年8月25日(月)
場所	松山市総合コミュニティセンター(松山市)
参加	350名(知事、県内市町長、自治体職員他)
応募	県内全20市町から46事例
概要	書類審査で選考された6事例を発表・審査(学識経験者、知事・市町長等により審査)
発表事例	①松前町地域ブランディング事業 (松前町)
	②「スマイル松山」プロジェクト (松山市)
	③「公の施設等評価及びあり方方針」の策定 (今治市) ※えひめ行革大賞受賞
	④スマイルアップで創ろう 最上のまち西条を (西条市)
	⑤学校給食における地産地消の推進 (大洲市)
	⑥「八幡浜みなと」民設民営手法の一部導入による道の駅・みなとオアシスの整備運営 (八幡浜市)
	【四国3県の参考発表】 サテライトオフィス誘致(徳島県三好市)、「行政改革」と「まちづくり推進隊」(香川県三豊市)、ASP共同利用型住民情報システムについて(高知県中西部電算協議会)
えひめ行革大賞	今治市／広域合併に伴い、800を超える公の施設を保有する現状を改善すべく、職員プロジェクトチームにおいて、独自の「公の施設等評価システム」を構築し、施設評価及びあり方方針を策定した。 当該評価システムを活用して、評価対象施設の1／4を廃止決定(111施設)した。 ⁶